

働きやすい環境を整備し、 プラスチック加工業界でトップに

事業内容

プラスチック商社から加工業に参入

同社は昭和63年設立のプラスチック切削加工会社。「プラスチック加工において社会に貢献し、良い未来を築く」をモットーに、衛生用品（おむつ）製造に使う治具や、食品工場の搬送パレットなど100個以下の少量品を手がけている。最初は商社からスタートし、平成元年に大阪府八尾市に工場を開設。平成24年には現在地に移転した。

樹脂を知り尽くした職人の技術力

プラスチックは温度や強度、製品の使用状況に合った材質選びが大切で、エンジニアリングプラスチック（エンプラ）など100種類以上の特性を知り尽くした山田耕司社長が顧客に最適な素材を提案するほか、接着や熱曲げ、溶接、熱プレス成形の加工も行う。その対応力から取引先は食品・日用品メーカーを中心に30社を超える。平成29年3月には第2工場を本社横に開設、拡張するなど事業拡大に力を入れている。

東海化成品 株式会社

代表取締役 山田 耕司
〒581-0055 大阪府八尾市跡部南の町1-1-1
TEL. 072-993-1329 FAX. 072-993-1754
資本金/10,000千円 従業員/13名
主な取引先/工作機械メーカー、生理用品メーカーなど
20社以上
主な保有設備/NC旋盤、パネルソー、MC、
3次元測定器など
主力製品/食品工場向け搬送パレット、
衛生用品向け治具

短納期 企画力 小ロット OK オナーン後産 OK 試作 OK 連携力

プラスチックの加工のことなら おまかせください

代表取締役 山田 耕司

平成元年から100種類以上のプラスチック素材を用いた切削加工を手がけてきました。これからも「プラスチックの加工のことならおまかせください」と胸を張って言えるよう、設備投資や社員の育成に力を注いで参ります。



補助事業

厚物加工ができる切断機導入

厚物樹脂に対応するパネルソー（切断機）を導入する。近年、設備機器の軽量化や耐食性の問題から金属部品の樹脂化が進み、特に耐衝撃性に強いエンプラは、衛生用品自動機に使う治具や産業用ロボットの関節部など使用範囲が広がっている。

加工能力だけでなく、 作業者の労働環境改善も

ただ、そこに使われている樹脂は厚みが50—100mmあり、50mmまでの現有設備では切断できず、丸鋸を使い2人がかりで切断していた。しかし、丸鋸での切断は時間がかかり効率が悪い。さらに、機械は刃物がむき出しのため、作業者が負傷する可能性があった。そこで、最新の板厚100mmまで対応する切断機を導入できれば、加工時間の短縮や切断能力が向上するだけでなく、「作業者の安全性が高まり、労働環境の改善にも大きく貢献できる」と山田社長は考えた。



導入した八尺自動パネルソー



手がけているプラスチック加工品



3次元測定器も完備

具体的成果

加工時間が4分の1に短縮

平成28年4月に板厚樹脂を切断する八尺自動パネルソーを導入した結果、材料切断の時間が大幅に短縮され、生産性向上に大いに貢献した。さらに切断加工の危険性も排除できた。導入した切断機は「自動送りデジタル制御」機能が搭載されている。これまでの丸鋸では刃物が樹脂に食いつき寸法精度がばらついていましたが、導入機ではそれを±0.5mm以内に抑え、切断後の仕上げ作業がなくなった。また最新機のため刃の切れ味も良く、切断と仕上げに8時間かけていた作業が4分の1に大幅短縮された。

熟練工2人がかりの切断加工も、タッチパネルの操作のため、加工ノウハウがない若手社員1人で対応できた。そのため熟練工を他の仕事に振り向くことで、加工に余力が生まれ、新たな受注に対応できた。

若手が安心して作業できる工場に

さらに切断機は安全性に配慮した構造のため、作業中に刃先が作業者に当たる危険性がなくなった。山田社長は「樹脂の切断が安心して若手に任せられる仕事になった」と喜び、現在目指している「次世代を担う若者でも使える」工場づくりに貢献した。

今後の戦略

受注増に対応すべく高精度な5軸加工機導入へ

「今後もプラスチック業界は伸びが見込める」と山田社長は断言する。実際に取引先からの受注が増えている。プラスチック治具が使われている衛生用品分野では、中国や東南アジアで品質の良い日本製おむつが売れており、日本でも大人用おむつの需要が見込める。また、一部品が使われる産業用ロボットでは人手不足対策の流れで導入が増えると予想する。そこで、さらなる加工能力向上のため平成31年中までに高精度な5軸加工機1台の導入を検討している。山田社長は「現在の機械より複雑形状にも対応でき、段取り換え時間も短くできる」と目を輝かせる。

若手社員への事業継承

それと同時に進めていくのが、事業承継への取り組みだ。山田社長は65歳になる4年後に引退すると宣言。現在若手に、長年蓄積したノウハウの伝承を進めている。数年以内に採用した若手は成長がめざましく「最終的に自立した社員になれば」と期待を込める。この取り組みを続けながら受注増にも対応し、山田社長は「売上高を平成29年1月期の約1億7,000万円から3年後には3億円にしたい」と意気込む。

取材を終えて

設備投資から見える 社長の熱い想い

東海化成品は「創業30年で離職者は1名だけ」という。その秘策を山田社長に聞くと「社員の個性を引き出すことだ」と教えてくれた。納期は大変だが、アットホームな環境で社員にのびのびと働いてほしい。そんな職場を作るべく山田社長は力を入れてきた。だから「切断加工を安心して若手に任せられる」の言葉に山田社長の人柄を感じ、それが離職者の少ない理由だと思った。65歳引退と言わず今後も第一線で活躍してほしい。

<http://www.toukaikaseihin.jp/>